

# 教育センター

センター長 川村 将弘

センター長・教授:

川村 将弘  
(薬理学第1) 医学教育学

副センター長・室長・教授:

福島 統 医学教育学 (教育開発室)

専任・室長・教授:

木村 直史  
(薬理学第2) 医学教育学 (医学教育研究室)

兼任・副室長・教授:

伊坪真理子  
(内科学 (消化器・肝臓)) 医学教育学 (医学教育研究室)

兼任・助教授: 川村 哲也  
(内科学 (腎臓・高血圧)) 医学教育学 (医学教育研究室)

兼任・助教授: 尾上 尚志  
(脳神経外科学) 医学教育学 (医学教育研究室)

兼任・講師: 畝村 泰樹  
(外科学) 医学教育学 (医学教育研究室)

兼任・講師: 古谷 伸之  
(内科学 (総合診療部)) 医学教育学 (医学教育研究室)

兼任・講師: 石橋 由朗  
(外科学) 医学教育学 (医学教育研究室)

兼任・講師: 鷹橋 浩幸  
(病理学) 医学教育学 (医学教育研究室)

兼任・副室長・助教授:

柏木 秀幸  
(外科学) 医学教育学 (教育開発室)

兼任・助教授: 松島 雅人  
(内科学 (総合診療部)) 医学教育学 (教育開発室)

兼任・講師: 柵山 年和  
(臨床腫瘍部) 医学教育学 (教育開発室)

兼任・助教授: 大石 杉乃  
(看護学科) 看護教育学 (教育開発室)

兼任・室長・助教授:

宇都宮一典  
(内科学 (糖尿病・代謝・内分泌)) 医学教育学 (卒後教育支援室)

兼任・副室長・講師:

佐々木英樹  
(内科学 (循環器)) 医学教育学 (卒後教育支援室)

兼任・室長・助教授:

平尾真智子  
(看護学科) 看護教育学 (看護教育研究室)

## 研究概要

平成11年4月1日に教学委員長を室長に医学教育研究室が学事部学務課内に設置され、複雑化する卒前医学教育業務を教職員連携のもとで進める体制が整えられた。平成14年4月には、木村直史教授が医学教育研究室国領分室長に任命され、その活動の場が国領校にも広がった。平成17年10月1日付けで教育センターに改組された。教育センター(川村将弘センター長、福島統副センター長)には、医学教育研究室(木村直史室長、伊坪真理子副室長)、看護教育研究室(平尾真智子室長、山下紳子副室長)、卒後教育支援室(宇都宮一典室長、佐々木英樹副室長)、教育開発室(福島統室長、柏木秀幸副室長)が置かれ、センター事務局が平成18年4月に開設されて教育センターの体制が完成した。

## I. 平成18年度現代的教育ニーズ取組支援プログラム「卒前教育教材から生涯継続学習教材へe-Learningを用いた医療系学部の地域医療者貢献」の採択

本学は文部科学省から平成15年度特色GP、平成17年度特色GPの採択を受け、総合試験システム、診療技能教育の拡充や体系的学外体験実習の充実を図ってきた。今回の取組は、本学が持つ卒前教育教材を地域で実習を行なっている学生やその指導を担っている地域医療者にe-Learningのシステムを使って供給しようとするものである。医科大学がその教材を広く地域医療者に提供することで、本学は学生だけでなく、地域医療者に学習機会を提供することでわが国の医療レベルの向上に寄与しようとするものである。文部科学省からの採択理由は、「本取組は、医療系教育において、コミュニケーションその他の実技のビデオ教材その他を一元的にまとめ、ネット上での活用を進め、学生による振り返りの学習に生かし、また卒後教育の資料としても活用するという優れた試みであり、他の医療系大学の参考に

もなります。少子高齢化を見越した e-Learning を用いた医療系学部の地域医療者貢献というテーマは大変現代のニーズに合っており、「振り返り」を促すシステムは、教育改革の有効性として大変期待できます。ただ、評価体制については、評価結果がプログラム改善などにどのように活かされるのかが明確でないなど、今後の十分な検討が望まれます。また、開発するコンテンツ数をより多く開発することが望まれます。」であった。

## II. 平成 17 年度特色 GP 事業

多職種連携医療者教育の推進を図る事業である。本年は、東京女子医科大学が主催する 6th Asia-Pacific Conference on PBL に協力し、その中で PBL in Inter-professional Education を企画し、英国リスター大学から演者を迎え国際カンファレンスを行なった。6月と10月に福島、松島が英国キングス大学を訪問し、英国 GP オフィスでの多職種連携教育を視察し、その結果を学内のセミナーで発表した。12月には、キングス大学から Jones 教授を招聘し、英国での GP 教育における多職種連携についてのセミナーを行なった。

## III. 平成 15 年度特色 GP 事業

慈恵医大総合試験システムの拡充と診療技能教育推進が取組の目的である。今年度が最終年度であり、学内でのコンピュータ試験の環境整備やスキルス・ラボの拡充などを行なった。

## IV. 平成 18 年度私立大学等経常費補助金（私立大学教育研究高度化推進特別補助）での教育研究

本年度は主に、① 多元的教員評価システムの構築、② 公開講座の推進、③ 学生による教員・教育評価活動、④ 医学教育セミナーとワークショップ、⑤ 学ぶ力を養成する 1 年生教育などの活動を行なった。10月には家庭医実習指導医講習会（学外指導医の FD）を開催した。

## V. 卒後教育支援

臨床研修の事務が 10 月をもって教育センターに移管された。卒後教育支援室が中心となって、臨床研修の円滑な運営、内科専門研修コースの運営、これらの内容のホームページでの公開、11 月と 2 月には臨床研修指導医講習会の開催、12 月には研修医・指導医連絡会の開催を行なった。また、臨床研修医の健康管理システムの構築も行なった。宇都宮室長

は 10 月にトロント大学で開催された内分泌レジデントプログラムの Faculty meeting に参加した。

## VI. 医療の安全管理と倫理ワークショップ

本年度は、4 月 15 日（附属病院）、5 月 27 日（青戸病院）、6 月 17 日（第三病院）、7 月 15 日（柏病院）8 月 19 日（附属病院）、9 月 16 日（附属病院）10 月 7 日（青戸病院）、11 月 18 日（第三病院）、12 月 16 日（柏病院）、1 月 13 日（附属病院）、計 10 回開催した。5 月 27 日は英国リスター大学の Dr. Angela Lennox に本ワークショップの外部評価を依頼し、高い評価を得た。

## VII. 看護学修士課程設置準備室

医療系大学院調査委員会は 9 月に看護学修士課程設置準備室の設置について中間答申を提出し、10 月に設置準備室が設置された。

## VIII. Advanced OSCE の研究

「Advanced OSCE 研究班の活動報告」厚生労働科学研究費「OSCE の実施に関する研究」班公開シンポジウムを 11 月 5 日本学にて主催した。

## IX. 教育センター主管委員会

教育センターが主管した委員会は、① 教育センター運営委員会、② 補助金検討委員会、③ 医療安全ワークショップ委員会、④ 医療系大学院調査委員会、⑤ 公開講座推進委員会、⑥ 教員評価データベース開発委員会、⑦ テレビ会議運営委員会、⑧ スキルス・ラボ運営委員会である。

## X. 学外での教育関係講演

1. 東海大学医学部医療安全の日セミナー「医療安全ワークショップー慈恵医大での異職種間ワークショップの実践」4月10日。東海大学病院
2. 東京医療専門学校教員講習会「試験問題の作成および評価について」4月22日。東京医療専門学校四ツ谷本部校舎
3. 北里大学病院平成 18 年度第 1 回リスクマネジメント講演会「医療安全ワークショップー慈恵医大での異職種間ワークショップの実践」4月26日。北里大学医学部
4. 松本歯科大学 FD「学習評価について」5月16日。松本歯科大学
5. 平成 18 年度厚生労働省指定柔道整復師専科教員認定講習会「教育方法」7月16日、8月5日、

- 8月20日。東京医療専門学校代々木校舎
6. 第30回(社)東洋療法学校協会教員研修会ワークショップ「試験問題の作り方の実際と演習」8月3日,4日。ホテルグランドヒル市ヶ谷
  7. 平成18年度関東甲信越ブロック保健師教育機関協議会講演「学生の総合能力をつけるための教育システムについて」8月18日。東京慈恵会医科大学医学部看護学科
  8. 全国リハビリテーション学校協議会第19回教員研修会特別講演「医療者教育が目指すもの」,パネルディスカッション「医師養成におけるOSCEの導入と効果」8月24日,25日。盛岡
  9. 山形大学医学部医学教育ワークショップ「学習評価」,「客観試験の作り方」8月26日,27日。蔵王
  10. 第4回泌尿器科サマーセミナー「医療安全ワークショップ:異職種間コミュニケーション」9月9日。鹿児島
  11. 平成18年度文部科学省「地域医療等社会的ニーズに対応した医療人教育支援プログラム」シンポジウム「共用試験の結果に関連する統計データの解釈とその意義について」英国のOSCE課題の学年順次性。9月28日。東京医科歯科大学
  12. 横浜市立大学医学部3年生医療コミュニケーション論II・医療倫理学「コミュニケーション入門」10月4日,3限。横浜市立大学医学部
  13. 共立薬科大学「特色ある大学教育支援プログラム」フォーラム「医療人教育」10月14日。共立薬科大学
  14. 第2回医学教育研究技法ワークショップ「医学教育誌編集委員会が目指す研究論文のあり方」10月15日。東京大学医学部
  15. 平成18年度重点型共同研究研究集会:科学的証拠を作り込む技法としての生物統計学「108学部が参加する臨床実習開始前の共用試験—教育の質の保証に対する大学の責任」11月2日。統計数理研究所
  16. 「モデル・コア・カリキュラムとシミュレータ教育—診療技能教育の向上を目指して」平成18年度医療人GP「シミュレーション教育の実際」11月24日。東京医科歯科大学
  17. 「試験としてのOSCE」平成18年度あはき師試験あり方研究会。11月28日。東洋鍼灸専門学校。
  18. 「医療者教育—その2:職場の中で学ぶ」第10回茨城県理学療法士学会 ランチョンセミナー。12月10日。筑波国際会議場
  19. 「医学教育の最近の流れと東京慈恵会医科大学の取組」特色GP事業新潟大学歯学部FD講演会。12月14日。新潟大学歯学部
  20. 熊本大学医学部医学教育ワークショップ「チュートリアル場面でのチューターの役割」。12月22日・23日。熊本テルサ
  21. 金沢医科大学臨床実習・臨床研修責任者会議FD「卒前臨床実習と卒後臨床研修」12月26日。金沢医科大学
  22. 第33回理学療法士・作業療法士要請施設等教員講習会(医療研修推進財団)「教育方法論II」1月20日,30日,31日,2月1日
  23. 兵庫医科大学4年生医療コミュニケーション授業「医療者コミュニケーション」1月25日。兵庫医科大学
  24. 大東文化大学法科大学院エクスターンシップ「コミュニケーション入門」,「医療事故」2月19日・20日。東京慈恵会医科大学
  25. 平成18年度医療人GP「薬学生の実践的教養教育推進システムの構築」(共立薬科大学)第1回医療系学生交流合同セミナー「ワークショップとは」3月22日。共立薬科大学

## XI. 医療系大学間共用試験実施評価機構モニター等

- ① 医学系CBT試験問題作成講習会。東北会場。4月21日。東北大学医学部。
- ② 医学系CBT試験問題作成講習会。大阪会場。4月24日。大阪医科大学。
- ③ 医学系CBT試験問題作成講習会。名古屋会場。4月25日。名古屋大学医学部。
- ④ 医学系CBT試験問題作成講習会。九州会場。4月28日。九州大学医学部。
- ⑤ 兵庫医科大学6年生Advanced OSCEモニター。5月6日。兵庫医科大学。
- ⑥ 福井大学医学部CBTモニター6月22日。福井大学医学部
- ⑦ 京都府立医科大学CBTモニター。7月20日。
- ⑧ 新潟大学医学部CBTモニター。8月15日。
- ⑨ 東京医科歯科大学医学部CBT追再試験モニター。8月28日。
- ⑩ 山形大学医学部CBTモニター。12月1日。
- ⑪ 金沢医科大学CBTモニター。1月18日・19日。
- ⑫ 長崎大学医学部CBTモニター。2007年1月22日・23日。
- ⑬ 岩手医科大学CBTモニター。1月29日。
- ⑭ 岡山大学医学部CBTモニター。2月2日。
- ⑮ 新潟大学医学部CBTモニター。2月6日。
- ⑯ 佐賀大学医学部CBT追再試験モニター。2月13日。
- ⑰ 和歌山県立医科大学CBTモニター。2月15日。
- ⑱ 愛媛大学医学部CBTモニター。2月21日。
- ⑲ 日本大

学医学部 CBT 追再試験モニター。2月24日。⑳ 大阪大学医学部 CBT モニター。2月27日・3月1日・2日。㉑ 神戸大学医学部 CBT 追再試験モニター。3月2日。㉒ 大阪医科大学 CBT 追再試験モニター。3月3日。㉓ 岡山大学医学部 CBT 追再試験モニター。3月5日。㉔ 兵庫医科大学 CBT 追再試験モニター。3月6日。㉕ 三重大学医学部 CBT 追再試験モニター。3月9日。㉖ 埼玉医科大学 CBT 追再試験モニター。3月12日。㉗ 山口大学医学部 CBT 追再試験モニター。3月15日。

#### 「点検・評価」

教育センターは、平成18年度4月に事務室が設置され、卒前・卒後教育と医療者生涯教育を推進していくことが使命である。経常費補助金特別補助やGP獲得では十分成果をあげていると考えているが、補助金事業の推進には学内の他の事務組織との連携が不可欠である。教育センターは新しい組織であるために、その業務分掌が未だ不明確な部分があり、それが他部署連携にとってマイナスに作用していると考えられる。今後は、業務に関する責任体制を他部署と決めて行く必要があろう。

### 研究業績

#### I. 原著論文

1) Nagata-Kobayashi S, Sekimoto M, Koyama H, Yamamoto W, Goto E, Fukushima O, Ino T, Shimada T, Shimbo T, Asai A, Koizumi S, Fukui T. Medical student abuse during clinical clerkship in Japan. *J Gen Intern Med* 2006; 21(3): 212-8.

#### II. 総説

1) 福島 統. 共用試験のめざすもの. *日医師会誌* 2006; 135(3): 560-2.  
 2) 福島 統. 共用試験 CBT. *昭和医会誌* 2006; 66(2): 63-7.  
 3) 小林志津子, 関本美穂, 小山 弘, 山本和利, 後藤英司, 福島 統, 井野晶夫, 浅井 篤, 小泉俊三, 福井次矢, 新保卓郎. 医学生が臨床実習中に受ける不当な待遇 (medical student abuse) の現状. *医教育* 2007; 38(1): 29-35.  
 4) 伊坪真理子. 多発性肝膿胞の診断と治療. *総合臨床* 2006; 55(4): 1339-40.

#### III. 学会発表

1) 福島 統. (特別講演) 医学教育の動向-ITの利活用. 日本医学写真学会 2006 年年次大会. 東京, 5月. [*日医写真会誌* 2006; 44(2): 42]

2) Fukushima O. Inter-professional education at the Jikei University School of Medicine. 6th Asia-Pacific Conference on PBL. Tokyo, May.  
 3) 柵山年和, 福島 統, 平井勝也. 新医師初期臨床研修制度の問題点とその対応について. 第38回日本医学教育学会大会. 奈良, 7月. [*医教育* 2006; 37(Suppl): 31]  
 4) 犬塚裕樹, 阿部好文, 大滝純司, 大野良三, 倉本 秋, 斎藤宣彦, 田辺政裕, 津田 司, 出口 寛, 中島宏昭, 伴信太郎, 福島 統, 藤崎和彦, 吉田一郎, 吉田素文, 畑尾正彦. Advanced OSCE トライアルにおける評価データの解析-評価データから評価者の区分はできるか? 第38回日本医学教育学会大会. 奈良, 7月. [*医教育* 2006; 37(Suppl): 44]  
 5) 柵山年和, 井上大輔, 福島 統. 効果的な緩和ケア教育に関する検討-公開セミナーのアンケートを通して. 第38回日本医学教育学会大会. 奈良, 7月. [*医教育* 2006; 37(Suppl): 64]  
 6) 仁田善雄, 奈良信雄, 石田達樹, 福島 統, 斎藤宣彦, 福田康一郎, 高久史鷹, 麻生武志. 共用試験 CBT 医学系第1回~最終トライアルのまとめ. 第38回日本医学教育学会大会. 奈良, 7月. [*医教育* 2006; 37(Suppl): 90]  
 7) 福島 統. 医療者(専門職業職者)育成のための学習評価システム. 第38回日本医学教育学会大会. 奈良, 7月. [*医教育* 2006; 37(Suppl): 105]  
 8) 藤崎和彦, 阿部好文, 大滝純司, 大野良三, 倉本 秋, 斎藤宣彦, 田辺政裕, 津田 司, 出口 寛, 中島宏昭, 伴信太郎, 福島 統, 犬塚裕樹, 吉田一郎, 吉田素文, 畑尾正彦. 国家試験 OSCE における模擬患者養成をどう考えるか. 第38回日本医学教育学会大会. 奈良, 7月. [*医教育* 2006; 37(Suppl): 44]  
 9) 福島 統. 多くの職種が参加する医療者教育. 第38回日本医学教育学会大会. 奈良, 7月. [*医教育* 2006; 37(Suppl): 105-6]  
 10) Itsubo M, Koike K, Nakano M, Ishiguro H, Tajiri H. The cases of HCC effectively diagnosed with the diffusion-weighted MR imaging. 17th Asian Pacific Association for the Study of the Liver. Kyoto, Mar. [*Hepatology International* 2007; 1(1): P-0587]  
 11) 久保恭仁, 伊坪真理子, 小池和彦, 石黒晴哉, 石川智久, 小林 進, 田尻久雄, 矢永勝彦. 正常肝に発生した非 B 非 C 肝細胞癌の若年発症の1例. 第42回日本肝癌研究会. 東京, 7月.  
 12) 小池和彦, 中野真範, 石黒晴哉, 伊坪真理子, 田尻久, 石井雄二, 矢永勝彦. 肝膿瘍との鑑別に MRI 拡散強調画像が有用であった肝細胞癌の1例. 第36回日本肝臓学会東部会. 東京, 8月. [*肝臓* 2006; 47(Suppl).

3) : 593]

- 13) 小田原俊一, 石川智久, 須藤 訓, 畝村泰樹, 小林剛, 中野真範, 石黒晴哉, 木下晃吉, 鳥巢勇一, 玉城成雄, 小池和彦, 穂刈厚史, 高橋宏樹, 渡辺文時, 伊坪真理子, 銭谷幹男, 田尻久雄. 13年後新たな肝発癌をみた肝細胞癌切除後インターフェロン著効慢性C型肝炎の一例. 第36回日本肝臓学会東部会. 東京, 8月. [肝臓 2006; 47(Suppl. 3) : 550]

#### IV. 著 書

- 1) 阿部好文, 福島 統, 後藤英司. 医学生・研修医のための連問形式で学ぶ診療トレーニング. 東京: メジカルビュー社, 2006.
- 2) 福島 統. 卒前医学教育の新しい動向3: 共用試験CBT. 日本医学教育学会編. 医学教育白書. 2006年版.

東京: 篠原出版新社, 2006. p. 65-9.

#### V. その他

- 1) 福島 統. 多職種が参加する医療者教育-Inter-professional Education (IPE). 第14期日本医学教育学会行動科学・人間関係教育委員会報告書 2006; 56-7.
- 2) 福島 統. (イラスト・コラム) 職場で学ぶクリニカル・クラークシップの学習環境. 医教育 2006; 37(3) : 160-1.
- 3) 福島 統. (表紙のことば) 小さな子供たちは素敵な学習者. 医教育 2006; 37(4).
- 4) 伊坪真理子. 非B非C肝細胞癌とNASH. 慈大新聞 2006; 625: 2.